

# 不燃ごみ資源化事業の実施について

令和4年度不燃ごみ予測量：5,500t/年間（令和2年度：5,425t/年間）

資源化量：1,650t/年間（資源化率30%）

事業効果：「ごみの減量、金属資源の有効活用による最終処分場の延命をはじめとする環境負荷の低減」、「収集運搬に係る車両の削減」

いままで

## 収集



小型プレス車

【車両】可燃ごみと同じ車両を使うため、ごみを圧縮する車両で収集を行う。

【作業】火災防止のためスプレー缶等を引き抜く破袋作業が必要

## 処理



不燃ごみを全てごみとして中防不燃ごみ処理センターに搬入し、処理される。

課題  
不燃ごみを全てごみとして処理

課題  
車両台数が多い

収集した車両がそのまま中防不燃ごみ処理センターへ  
1日当たり約40台

令和4年4月以降

## 収集



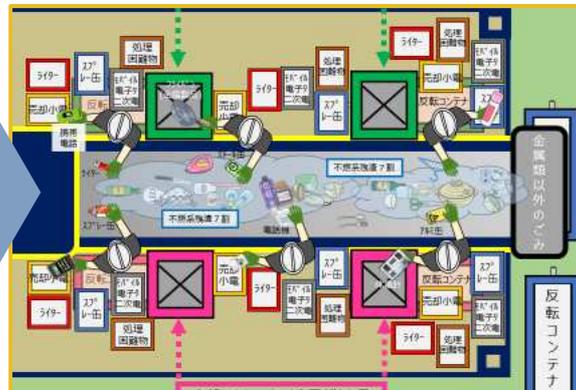
小型排出車

【車両】車両火災の防止等のため、ごみを圧縮しない車両で収集を行う。

【作業】スプレー缶等を引き抜く破袋作業は不要

区内に整備する中継施設へ

## 選別作業および付帯作業



ベルトコンベアを使い、不燃ごみから資源化が見込める小型家電（携帯ゲーム機、デジタルカメラ等）や金属類（フライパン、やかん、鉄製のラック等）を選別する。

## 処理



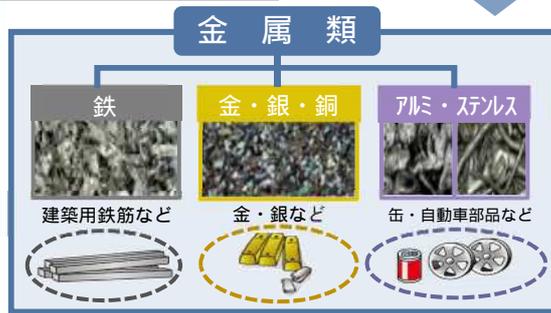
不燃ごみのうち金属類以外を中防不燃ごみ処理センターに搬入し、処理される。

資源・ごみを大型車両に集約して搬出

効果  
不燃ごみのうち約30%  
(約1,650t)の資源化を実施

効果  
搬出車両の集約等により使用する車両台数を削減  
CO<sub>2</sub>削減、経費削減

## 資源化



資源化業者が、品目・材質別に仕分けて破砕し、磁力・風力等で選別、金属原料として各製造メーカーに出荷